

サンプル卒業論文

タイトル

「日本の若者における SNS 利用が自己意識に与える影響について」

目次

1. 序論
2. 文献レビュー
  - 2.1 SNS と自己意識に関する既存研究
  - 2.2 日本の若者文化における SNS の位置づけ
3. 研究方法
  - 3.1 調査対象と方法
  - 3.2 分析手法
4. 結果
  - 4.1 調査結果の要約
  - 4.2 SNS 利用頻度と自己意識の相関
5. 考察
  - 5.1 結果の解釈
  - 5.2 社会的影響と心理的要因
6. 結論

## 序論（抜粋）

現代の日本において、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）は、若者の生活に深く浸透している。特に、Instagram や Twitter といった SNS プラットフォームは、日常生活や個人のアイデンティティ形成に大きな影響を与えているとされる。本研究では、日本の若者が SNS を通じてどのような自己意識を形成しているのか、また SNS 利用が自己認識や他者評価に及ぼす影響について考察する。既存の研究においては、SNS が自己意識に与える影響について一定の結論が得られているものの、日本の文化的背景や社会構造を反映した研究は限られているため、本研究が果たす役割は大きい。

## 表の例

SNS 利用頻度 自己意識の変化 他者からの評価意識の度合い

週 3 回未満 低い 低い

週 3～5 回 中程度 中程度

週 6 回以上 高い 高い

## グラフの例

図 1. SNS 利用頻度と自己意識への影響度合い

（SNS 利用頻度が高くなるにつれて、自己意識や他者評価の意識も高くなる傾向を示すグラフ）

## 結論（抜粋）

本研究を通じて、SNS 利用頻度が高い若者ほど、他者からの評価を強く意識し、自己意識の形成にも大きな影響を受けることが明らかとなった。また、日本独自の「同調圧力」や「集団意識」が SNS を介して強化され、若者の心理や行動に影響を及ぼしていると考えられる。これにより、SNS が若者のメンタルヘルスに与える影響も今後の課題として考察する必要があるだろう。